

ねらい	コミュニケーションの活性化を図り、生徒同士の関わりを広げる。		
教科・領域	特別活動	時間	約 100 分間
対象	中学 1 年生	人数	約 35 人
活動の流れ	活動名	概要	○留意点 ●指導者の視点
	バロメーター (目標確認)	○お題に対して、腕の角度で自分の得点を示し、お互いの状態を知り合う。	○お題 ・スポーツが好き ・登校時間が長い ・クラスで話したことのある人の割合 ・クラスのチームワーク
	じゃんけん	○ペアでじゃんけんをし、あいこになったら成功。 ○ペアでじゃんけんをし、相手の出した手を「石・鋏・紙」のどれかで早く言い合う。 ○ペアでじゃんけんをし、ゲーム 100 円・チョコ 20 円・パー 5 円として、たし算をする。 ○ペアで 1 回だけじゃんけんをし、あいこになったら成功。5 人とあいこになった人から輪になる。目標は全員クリア。	●ペアを作るために自分から声を掛けているか、待っているか。 ○エラーを楽しむ気持ちが失敗を恐れずチャレンジする土台になる。 ●勝敗ではなく、関わりを楽しむ雰囲気があるか。 ●目標達成のため、クリアした人がみんなのためにできることは何か。
	キャッチ	○全員で輪になり、左手は上向き、右手は短いロープを持って、隣の左手の上に垂らす。「キャッチ」の掛け声で、左手はロープをつかみ、右手のロープは逃げる (アクティビティ集参照)。	●みんなでエラーを楽しむ雰囲気があるか。「キャッチ」の掛け声を言う一歩を踏み出せるか。
	ジップザップ	○全員で輪になり中央の一人(ジップ星人)が「ジップ」と言いながら誰かを指差す。差された人はしゃがみ、両隣の人は「ザップ」と言いながら、しゃがんだ人の頭上に手を出す。エラーが起こったら、ジップ星人を交代する (アクティビティ集参照)。	○慣れてきたら、間延びしないように中央のジップ星人の人数を増やす。 ●中央に立つ (ジップ星人になる) プレッシャーを楽しめる雰囲気があるか。
	前後左右 (4方向ジャンプ)	○全員で輪になり隣の人と短いロープを持ち合う。指導者が「前」と言ったら、全員で「前」と言いながら、一歩前に跳ぶ。「後ろ」「右」「左」を含め、ランダムにテンポよく繰り返す (アクティビティ集参照)。	○慣れてきたら、①言われたことと逆の言葉・動作、②言われたとおりの動作・逆の言葉等のバリエーションを試す。
集合写真	○1枚の絵を8等分したカードを配り、お互いのカードを見せ合わずに話し合っ、絵に関する	●問題を解決するために、コミュニケーションにおいてどんな工夫があった	

	キーパンチ	<p>る問題(①絵の中には全員で何人いるか。②前列の左から3番目は誰か)を解決する。</p> <p>○スタートの合図で円の中に一人が入り、1番のゴム皿を踏んで円から出る。次の人が2番、その次の人が3番…という順に、一人ずつゴム皿を踏み、全員が踏んで円から出るまでの時間を縮めていく(アクティビティ集参照)。</p>	<p>か。</p> <p>●起こったエラーをどのように修正するか、集団での合意形成と体験学習サイクルについて学ぶきっかけとなる。</p>
振り返り	<p>○クラスの中で話したことのある人の割合、クラスのチームワークは活動前と比べてどう変化したか。</p> <p>○活動を通して学んだことで、日常生活に活かせるようなことを漢字1字で表現すると?それはなぜ?</p>		
準備物	短ロープ、「集合写真」の情報カード、キーパンチセット、ストップウォッチ		
参加者の様子や感想	<p>○「日頃話さない仲間と話すことができた」「今まで団結力がないと思っていたが、今日クラスの団結力を感じた」等の感想があった。</p> <p>○キーパンチでは35人の合意形成に難しさを感じつつも、積極的に意見を出す生徒が引っ張る形で、自分たちの目標タイムを見事にクリアし、達成感を味わっていた。</p>		
指導に係る気づき	○全体として活動に前向きで意欲的に取り組む様子が見られた。一方で、一部同じ失敗を繰り返し活動が停滞するグループがあり、支援の難しさを感じた。		